

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.19 2010年10月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ソニー、オールインワン型のHDビデオ会議システム発売、HDビデオ会議ラインナップ強化



PCS-XL55(ソニー資料)

ソニービジネスソリューション株式会社(東京都港区)は、オールインワン型のHDビデオ会議システム「PCS-XL55」の発売を発表。販売開始は、2011年1月から。(9月29日)

「ここ数年でネットワークインフラが安定し、ビデオ会議も高画質を求められるようになってきた。また、それを反映して、市場もHD化へますます進む傾向を示している。今回、新たに一体型のHD対応機を発売することで、当社のHDビデオ会議ラインナップを強化し、競争の激しい市場でリーダーシップを狙っていきたくと考えている。」(ソニービジネスソリューション)

PCS-XL55は、16:9のアスペクト比に対応した21.6インチディスプレイ、800万画素CMOSイメージセンサー搭載カメラ、そして、マイク(カメラ横)やスピーカ(2個)などを内蔵した一体型システム。またPCモニターとしても併用できる。

一体型ながら、映像と音声の入出力も備え、外部ステレオマイクやスクリーンあるいはプロジェクタなどと組み合わせた使い方もできる。さらには、キオスクモードを使うとカスタマイ

ズした画面で遠隔相談などでも活用できる。

PCS-XL55は、H.323とIETF SIPのプロトコル、映像は、720p60 フレーム/秒に対応し、最大使用帯域は、4,096kbps。オプションを使えば、ISDN 通信も可能となっている。H.239 デュアルストリーム対応。

音声は、MPEG-4 AAC 48kHz オーディオ帯域(22kHz)に対応し、ステレオ音声も可能となっている。ただし、ステレオ音声送信のためには、外部マイクが必要となる。

加えて、音声については、ソニー独自のエコーキャンセラーを搭載。旧方式よりもエコー除去量が増え、音切れや声のこだまを効果的に消去し、従来よりも、人の声がさらにクリアに聞こえるという。

その他では、インテリジェント QoS や、NAT、PPPoE、暗号化、IPv6 などにも対応している。

一方、データ会議(送信は別途オプション必要)については、「Microsoft PowerPoint」や「Microsoft Excel」などの他、フラッシュや動画、Web サイトなどを表示している画面を、XGA 解像度で、最大 30 フレームで送受信できるようになっている。(対応解像度はSXGAまで)

また、このデータ会議では、ビデオアノテーション機能を使うことで、共有しているPC画面やカメラ映像上データに書き込みをすることもできる。その際には、株式会社ワコム(埼玉県加須市)のタブレットを PCS-XL55 に接続して使用する。また書き込んだりしたものは、静止画としてメモリースタックに保存することもできる。

メモリースタックは、その他、バージョンアップやアドレス帳、あるいは、ストリーミングレコーディング機能を使った会議録画などの保存に使用できる。

ここまで見てくると、PCS-XL55 の性能や機能については、基本的に PCS-XG シリーズの性能や機能をほぼ踏襲しているようだ。

ところで、前述のとおり、PCS-XL55 は、パソコン用のモニターとしても PCS-XL55 は活用できる。ビデオ会議との切り替えは、本体側面にある手動スイッチで行えるが、自動切り替えにも対応している。

たとえば、PCS-XL55 のディスプレイを使って PC 作業をしているとしよう。その際の PCS-XL55 のディスプレイ上には、Microsoft Excel などのパソコンの資料が全画面表示されていることになる。そこで、その作業中にビデオ会議の着信が入ると、PCS-XL55 のディスプレイ上のレイアウトが変わり、着信した相手の映像画面が大きく現れ、さきほどのパソコンの資料を表示した画面が相対的に小さく、お互いに重ならないように表示される。そうすることで、パソコン作業を中断せずにビデオ会議を開始することができる。ちなみに、これらの2つの画面のレイアウトは、リモコン操作で変更することが可能。

一方、カメラには広角レンズを採用しており、このため、モニター前でも複数のユーザーを映し込むことができる。また、カメラには、プライバシー用のカバーが装着されている。このカバーは、音声とも連動しているため、カメラがカバーで閉じられると、音声も消音されるようになっている。

その他では、PCS-XL55 のリモコンは、PCS-XG シリーズで標準になっている RF リモコンを採用している。無線方式を採用したリモコンで、赤外線リモコンと比べ、装置にリモコンを向けなくても、操作ができるという見通し外操作が可能なのが特徴。

あと、PCS-XL55 は、RGB の入力と出力端子、また音声の入出力端子も搭載し、プロジェクタやスクリーン、マイクやスピーカと組み合わせた使い方もできる。

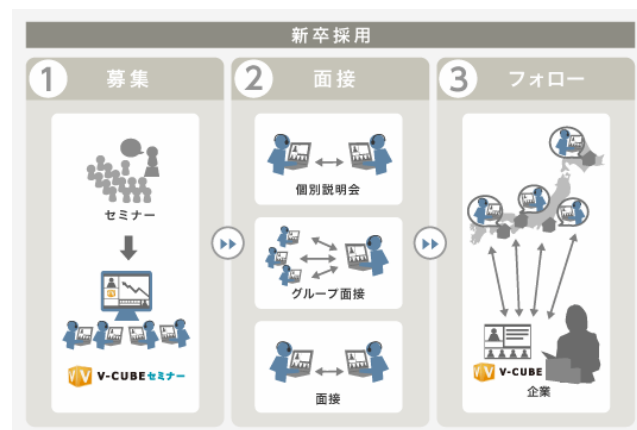
「たとえば、相手からの映像画面は、PCS-XL55 のディスプレイで表示しながら、一方でデータの画面は、RGB 出力端子を使うことで、プロジェクタに映し出すといったデュアルモニターも可能だ。さらに、外部マイクやスピーカなどと組み合わせれば、PCS-XL55 本来のパーソナルな使い方から、大人数が参加した会議室やセミナー室でも活用できる。」(ソニービジネスソリューション)

今回発表された PCS-XL55 は、同社の HD 対応ビデオ会議システムラインナップの中では、577,500 円(税込、1年間の保証付き)と、低コスト導入の可能な HD 対応のモデルになる。

「大規模ビデオ会議導入で、主要拠点では、ハイエンドの PCS-XG シリーズ、そして、一方小規模拠点には、この PCS-XL55 といった組み合わせが最適ではないかと思っている。それに加え、当社では、VCS シリーズといった MCU も提供しているため、ソニーワンブランドでビデオ会議を安心して導入できる。」(ソニービジネスソリューション)

ブイキューブ、オンライン面接サービスを発表

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、PC 対 PC で行えるオンライン面接システム「V-CUBE インタビュー」の販売を開始した。(9月13日)



V-CUBE インタビュー (ブイキューブ資料)

V-CUBE インタビューは、複数の面接官が、それぞれ違う場所にいても、同時に受験者と企業側が面接を行え、また、受験者にとっても、最寄りの支社や営業所などに来て面接を受けることができるサービス。個別面接や集団面接、さらには、内定後の入社までのコミュニケーションなどに対応し、録画機能を使うことで、面接などに参加できなかった担当者との共有もできる。加えて、資料共有機能をつかえば、履歴書などの受験者の資料を共有した面接も行える。

オンライン面接で行える同時参加数は、5拠点(最大表

示数も5拠点)まで対応し、第三者招待も可能、標準録画ストレージは、500MB。初期費用は、45,000 円(税抜き、以下同)、月額基本料金は、50,000 円、利用時間は無制限。ただし、最低契約期間は、1年となっている。セキュリティについては、ASP/SaaS 情報開示制度に認定されたセキュリティに対応している。

ブイキューブによると、この遠隔面接が行えることで、企業は、交通費や場所代、資料など、面接にかかっていたコスト削減の他、地方や海外の人材の採用機会の拡大などのメリットがあるという。同社では、次年度の導入社を300社と見込んでいる。

コクヨ S&T のフルハイビジョン対応テレビ会議システム、5 拠点同時会議機能を追加、専用 MCU は不要

コクヨ S&T 株式会社(大阪市東成区)のフルハイビジョン対応テレビ会議システム「meetima XVD コミュニケーションシステム」が、5 拠点同時会議機能を追加すると発表。その新たな機能の搭載は、10 月末の発売から予定している。(9 月 17 日)

最大 5 拠点間での同時会議を実現する“会議モード”を新機能として追加する。これにより、専用の多地点接続装置(MCU)を用意しなくても、XVD コミュニケーションシステムだけで多地点会議を実現する。また、この会議モードでは、画面に 4 分割表示される接続先と同時に会話が行えるだけでなく、任意の 1 拠点の映像をフルハイビジョン映像画質(1,920 x 1,080 画素)に切り替えることができる。

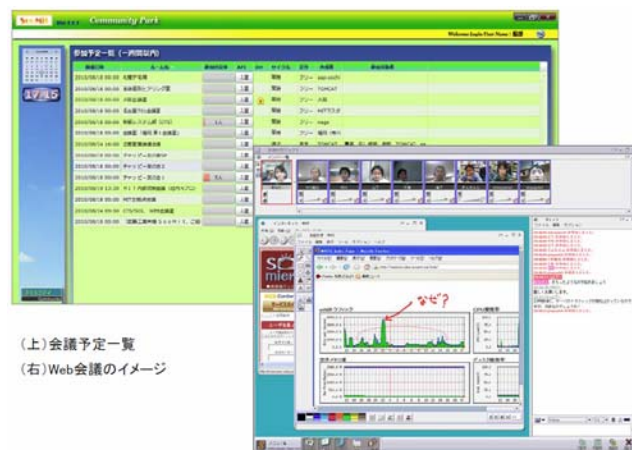
meetima XVD コミュニケーションシステムは、2009 年 10 月発売。XVD Technology Holdings 社が開発した、ブロックノイズが起りにくいなどの特徴をもった映像高圧縮技術 XVD を搭載しており、1Mbps の通信帯域でフルハイビジョン映像を伝送できるため、一般光インターネット回線でのローコストでの運用ができる点を特長としている。

「meetima XVD コミュニケーションシステムボックス」のメーカー希望小売価格(税込み)は、126 万円。推奨構成(meetima

XVD コミュニケーションシステム、フルハイビジョン対応カメラ、音響器機を含む)の参考価格は、190 万円/拠点。発売後1年での売上目標を、5 億円としている。

関連記事: Vol.11 No.15 2009 年 8 月 15 日号

SOBA プロジェクトとムトーアイテックス、Web 会議管理システムを発売



SOBA mieruka + SooMit (SOBA プロジェクト資料)

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、Web 会議管理システム「SooMit(ソーマット)」を 9 月 24 日発表。販売は、9 月 29 日より、SOBA プロジェクトとムトーアイテックス株式会社(東京都豊島区)の両社で実施する。

SooMit は、ムトーアイテックスが開発した、SOBA プロジェクトの Web 会議システム「SOBA mieruka」に機能追加するソフトウェアで、会議管理機能を提供するもの。サーバが不要で、ダウンロードすればすぐに利用できる。

SOBA プロジェクトは、Web 会議システムにスケジュール管理機能を追加し、各人が参加する会議を月単位で表示するなど、グループウェア同様の便利さを持たせることで更に企業での導入が促進されると考えたため、今回の SooMit の開発と両社による販売開始となった。

SooMit の機能の特長は2点ある。まずは、Web 会議スケジュールを管理する機能。Web 会議の予定作成や参加者の開催通知、社内の会議予約状況、会議参加者の管理、各個人の参加予定の会議管理などの機能を提供する。

また、もうひとつは、臨時に外部の企業との Web 会議をおこなうための機能となっている。

SooMit の主なターゲットは、製造業を中心とした経費削減、作業効率アップを検討している企業全般。販売目標は、初年度(2010 年度)、300 社(2社合計)を目指す。

販売価格は、買取で 39,900 円/ライセンス、リース使用月額は、1,260 円/ライセンスとなっている。

ムトーアイテックスは、1992 年設立。システムソリューションサービス、ソフトウェア開発・販売、その他コンピュータ関連事業を行っている。親会社は、MUTOH ホールディングス株式会社(東証 1 上場、証券コード:7999)。

日本アバイア、デスクトップから会議室までフルラインナップのビデオソリューションを発表

日本アバイア株式会社(東京都港区)は、企業向けコラボレーションソリューションの新製品群「Avaya Video Collaboration Solutions(アバイア ビデオ コラボレーションソリューションズ)」を発表した。(9 月 16 日)

この Avaya Video Collaboration Solutions は、SIP ベースのコミュニケーションプラットフォーム「Avaya Aura(アバイア オーラ)」で動作するビデオ会議ソリューション。

Avaya Video Collaboration Solutions では、デスクトップから会議室までフルラインナップのビデオソリューションを提供する。既存のビデオ会議ソリューションと比較して、約 2/3 コストとネットワーク帯域で、ビデオ会議システムを導入できるという。また、H.323 との接続性を提供することで、SIP と H.323 の相互接続による利便性を向上させることで既存資産を生かすことができるとともに、運用管理費も低減できると説明している。

今回発表になった製品等は、以下の通り。

(1)「Avaya Flare Experience(アバイア フレア エクスペリエンス)」。電話、ビデオ、カンファレンス、インスタントメッセージング、プレゼンス、メール、ソーシャルネットワーキング(Facebook や Twitter など)をひとつのユーザインターフェイス上で統合的に利用可能にするもの。回転式のアドレス帳

からプレゼンスを視覚的に確認して、最適なコミュニケーション手段を選択して簡単にコンタクトができる。Android OS 上で開発されたシステム。この Avaya Flare Experience は、現在 Avaya Desktop Video Device で利用できるが、2011 年には、Windows 版、タブレット PC、スマートフォンなどの環境でも提供予定という。

なお、「Avaya one-X9600 シリーズ IP 電話機」も、Avaya Flare Experience をサポートしている。音声、会議コントロール、インスタントメッセージング、プレゼンスなどに加え、「Microsoft Outlook」のコンタクトリストとも連携ができる。

(2)「Avaya Desktop Video Device(アバイア デスクトップ ビデオ デバイス)」。11.6 インチの HD タッチスクリーンと、720p HD 対応カメラ、デュアルマイク、スピーカなどを搭載した一体型の端末。無線 LAN に対応しているため持ち運びも可能で、USB 接続によってオプションのキーボードや受話器にも対応する。次期バージョンでは、VPN 接続によるリモートアクセスをサポート予定。

(3)「Avaya 1010/1020」。HD に対応したビデオ会議端末。小規模な環境でのビデオ会議用途に対応。

(4)「Avaya 1030/1040/1050」。HD に対応したビデオ会議端末。デュアルスクリーンや多地点会議用の内蔵 MCU を搭載。

(5)「Avaya Videoconferencing Manager 6.0(アバイア ビデオ カンファレンシング マネージャ)」。会議のスケジューリング、構成、モニタリングなどの管理機能を提供。「Avaya Aura System Manager(アバイア オーラ システム マネージャ)」から利用できる。

(6)「Avaya one-X Communicator 6.0(アバイア ワンエックス コミュニケーター)」。HD ビデオ、電話、インスタントメッセージング、プレゼンス、カンファレンスなどの機能を提供するソフトウェア。IBM やマイクロソフトなどのデスクトップ環境と連携することが可能。

(7)「Avaya Collaboration Server(アバイア コラボレーション サーバ)」。Avaya Aura 6.0 のコアの機能をすべて単一サーバ上で提供する。H.323 や SIP 環境に、Avaya

Flare Experience、Avaya Desktop Video Device、Avaya Video Conferencing Solution を統合できる。最大 50 のエンドポイントをサポートするという。

製品・サービス動向-海外

フラウンホーファー研究機構、家庭向けの HD 対応のテレプレゼンスシステムを発表

ドイツのフラウンホーファー研究機構 (Fraunhofer IIS) は、家庭向けの HD 対応のテレプレゼンスシステム「telepresence@home」を発表。(8月30日)



telepresence@home (Fraunhofer IIS 資料)

telepresence@home は、EU が実施している「Together Anytime Anywhere Together(TA2)」プロジェクトの一環として開発された。TA2 は、家族や友人同士の間でよりよい関係を築く中で通信端末の可能性を検討するプロジェクト。

telepresence@home は、PC ハードウェアをベースにしたシステム。コミュニケーション用のコーデックエンジンは、Fraunhofer IIS から提供されており、CD 並の品質を実現している MPEG AAC-ELD(Enhanced Low Delay)を音声コーデックとして採用。また、映像コーデックについては、H.264 に低遅延のフレームグラバカードを組み合わせ、エンドツーエンドで 100ms を実現している。さらには、マルチチャネルのエコー制御用ソフトウェアを搭載し、IP ストリーミングスタック、パケットエラーコンシールメントなどで QoS を確保している。

パソコンをベースとしたシステムながらも、同室感を実現した高品質のコミュニケーションを家庭でも享受できるのが特

長と説明している。

フラウンホーファー研究機構の日本窓口は、フラウンホーファー日本代表部(東京都港区)。

telepresence@home TA2 プロジェクト

<http://www.ta2-project.eu/>

コンピュネティクス社、データコラボレーションツールの最新版を発表

米コンピュネティクス(Compunetix)社は、パフォーマンスの向上及び機能の強化を目的とした、「CONTEX Presenter(コンテックスプレゼンター)」の最新バージョン CONTEX Presenter 3.10.0 を発表した。(9月7日)

今回の CONTEX Presenter 3.10.0 によって、以下の機能を追加した。(1)ワンクリックダイヤルアウト、(2)「Microsoft Outlook」カレンダー機能との連携、(3)サーバパフォーマンスの向上:一会議あたりの参加者数の増加。(4)複数のホストアカウントをひとつの請求書番号にまとめることが可能。

CONTEX Presenter は、同社が販売する CONTEX シリーズの音声会議多地点接続装置に最適化されたデータコラボレーションツール。音声会議とシームレスに連動するように設計されており、会議への接続/切断、音声消音/解除、出席確認(roll-call)、レコーディングの開始などを音声会議から制御できる点が特徴。また、ユーザインターフェイスのカスタマイズ、1会議あたり 256 名の参加が可能、マルチモニターなどに対応している。簡単な設定でこれらの機能が設定できる。

コンピュネティクス社日本オフィスの窓口になっているのは、株式会社ジェイ・ティ・エス(神奈川県横浜市)。

導入・利用事例-国内

徳島県の自治体クラウド開発実証事業の遠隔会議システム実証においてマイクロソフトテクノロジーが採用

マイクロソフト株式会社(東京都渋谷区)は、徳島県が、

開発実証事業で利用する遠隔会議システムにマイクロソフトテクノロジーを採用したと発表。(9月3日)

総務省では、「自治体クラウド開発実証」において、総合行政ネットワーク(LGWAN)に接続された都道府県データセンターとASP、SaaS事業者のサービスを組み合わせて地方公共団体が共同利用できる各種業務システムを構築しており、徳島県は、その「自治体クラウド開発実証事業」の委託を総務省から受けている。

その中では、文書管理(文書交換)システムや行政情報掲載システムの都道府県の枠を超えたシステムの共同化実証の他、LGWANにおける負荷の検証を行うため、遠隔会議システム実証も行うこととなり、この実証にマイクロソフトテクノロジーが採用された。遠隔会議システムの実証も行われる理由には、今後自治体クラウドの普及によって映像データの増加が予想されているからだ。

今回マイクロソフトテクノロジーが採用された主な理由としては、LGWANで利用可能な製品機能を持っていること、またすでに徳島県で実績がある、など。

実証実験においては、徳島県の本庁および分庁舎(南部総合県民局、西部総合県民局)と2自治体(三好市、上勝町)をLGWANにより接続し、遠隔会議サービスを実施し、遠隔会議の生産性向上効果と、クラウド基盤としてのLGWANのセキュリティを含めた性能を検証する予定だ。

製品構成としては、センター(全国NOCに接続)においては、「Microsoft Office Communications Server(マイクロソフトオフィス コミュニケーションズ サーバ)」、「Windows Server(ウィンドウズサーバ)」を設置、一方で、県域ネットワークに接続するユーザは、「Windows」、「Microsoft Office」、「Microsoft Office Live Meeting」、「Polycom CX5000」を使用する。なお、Polycom CX5000については、ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)の提供するMicrosoft Office Live Meeting 用音声、ビデオ会議システムを使用する。

セミナー・展示会情報

<国内>

株式会社シード・プランニング主催
 コラボレーション時代の Web 会議フォーラム
 ビジネスの発展とマネジメントのための「Web 会議」活用とは？

日時:2010年11月12日(金)

展示:11:30~18:30

講演/パネルディスカッション:13:00~17:50

費用:講演参加費 5,000円(税込) 展示会のみ参加 無料

会場:TEPIA ホール

主催:株式会社シード・プランニング

講演・パネルディスカッションスケジュール

【特別講演】

「映像コラボレーションと経営革新」

講師:日本大学商学部大学院 商学研究科教授

児玉 充氏

【講演】

「北米の Web 会議システム活用事例とその効果」

講師:テレスパン・パブリッシング CEO

エリオット・ゴールド氏

※ Web 会議システムによる講演(逐次通訳)

【講演】

「Web 会議ビジネスの最新市場動向と新しい流れ」

講師:株式会社シード・プランニング 主任研究員

原 健二

関連レポート:テレビ会議/Web 会議の最新市場動向 2010

(書籍版/PDF 版)

【講演】

Web 会議システム ユーザー企業様による講演 数社

【講演】

Web 会議サービス事業者様による講演 数社

【Web 会議 ユーザー企業様 パネルディスカッション】

モデレーター

日本大学商学部大学院 商学研究科教授

児玉 充氏

講演・出展予定企業

IBM/エイネット/NTT アイティ/木村情報技術/ジャパンメディアシステム/ニューロネット/日立製作所/ブイキューブ/パナソニック ソリューションテクノロジー/沖電気ネットワークインテグレーション/パイオニアソリューションズ/ほか

詳細・申込:

<http://www.seedplanning.co.jp/forum/other/20101112web-conference/index.html>

(次ページへ続く)

Web会議の利用がイメージできる無料デモセミナー

日時:10月20日(水)、28日(木)

*全て時間は、15:00~17:00。

場所:大阪オフィス

主催:株式会社エフ・シー・エス

詳細・申込:<http://costsaver.jp/index.html#seminar>**会議の効率化を実現!『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催**

日程:2010年10月20日(水)、27日(水)

※全ての日程で14:00~15:00、16:00~17:00の2回開催

会場:NEC情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:NEC、NEC情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>**Web会議/Webコラボレーション SaaSBoard 無料セミナー 『クラウドコンピューティング時代における劇的経費削減の方法』**

日時:10月22日(金) 13:30~17:00(13:00開場)

会場:渋谷区商工会館 2F セミナー室

主催:ニューロネット株式会社

共催:ライド株式会社

詳細・申込:<http://www.neuronet.co.jp/seminar/formservice.cgi>

*ニューロネットの Web 会議サービス SaaSBoard と、ライドの SpeeeverGW と SaaSBoard の統合事例の紹介、Q&Aフリーディスカッション、そして終了後は、懇親会(実費:¥3,000~¥5,000程度。希望者のみ。)

IT pro EXPO 2010 ビジュアルコミュニケーション 2010

日時:10月18日(月)~20日(水)

会場:東京ビックサイト東4-6ホール

主催:日経 BP 社

詳細・申込:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2010/vc/index.shtml>

*展示と、講演(ビジュアルコミュニケーションフォーラム)。講演では、シード・プランニングの市場動向の講演あり。

展示会、セミナー情報は、随時情報が入り次第、下記ページにて掲載していますのでよろしければご参照ください。

<http://cna.jp/cna/event-j.html>**< 海外 >****TeleSpan's Sixth Annual Future of Conferencing Workshop**

日時:2011年3月17日-3月18日

会場:アメリカ ラスベガス

主催:TeleSpan Publishing Corporation

詳細・申込:<http://www.telespan.com/workshop/index.html>**遠隔会議 & UC 研究会**

「遠隔会議&UC研究会」を LinkedIn に開設(8月18日)しました。遠隔会議やUCの可能性について意見交換や情報交換、またネットワーキングが行えればと思っています。詳細は、下記 URL をご覧ください。今のところ私を入れて17名です。参加、退会は自由です。費用もかかりません。ただし、LinkedIn のアカウント(無料)を開設していないと参加できません。

<http://www.linkedin.com/groups?gid=3317483&about=>**編集後記**

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

テレスパン社 Elliot Gold 氏が8月に MSpaceUniversity (ミネアポリス)で基調講演したビデオ(Videoconferencing as a Way of Life)が下記で視聴できます。

<http://shows.implex.tv/Qwikcast/Root/Mspace/4093/preflight2.htm>

この前の CEATEC では、テレビ会議では、パナソニックの Skype と液晶ディスプレイを組み合わせたもの、日立製作所の Woolive、HATS PLAZA でソニーの HD ビデオ会議システム、アイ・コミュニケーション(島根県)のテレビ電話を会場で見かけました。(他にもあったかもしれませんが。) また、パナソニックのブースに 3D 映像コミュニケーションも展示されていたようです。Web 会議では、ニューロネットが出展していました。

最近の市場での動きで注目したのは、アバイアのビデオソリューションの発表、アバイアのスカイプとの提携、また、スカイプ 5.0 が 10 人同時の多地点ビデオチャットをサポート、イタリア Mirial 社のビデオ会議ソフトウェアなどで

テレプレゼンス市場での動きも活発に動いています。北米のインテグレータ AVI-SPL のテレプレゼンス製品発表、また、インドの VU Technologies や Business Octane、中国の Huawei などテレプレゼンス製品市場に入ってきています。

一方で、コンシューマ向けでは、Fraunhofer やシスコなどが HD 対応のホームテレプレゼンスを発表しています。それに加えて、Skype や Google チャットなどのフリーVoIP や、iPhone4 などコンシューマ向けのビデオチャット製品もこれから充実して行くように見えます。

今後のインドや中国メーカーの動きや市場への影響、また、コンシューマ向けテレプレゼンスの動きにも注目していきたいと思っています。

(橋本啓介)